

富田林高等学校 2020(令和2)年度学校教育自己診断結果の分析・考察

生徒からの肯定的評価は上昇傾向が継続

今年度から学校教育自己診断を Web 連絡網によって実施したことに伴い、自由記述を含めて質問数を 20 問に絞った。質問内容・質問数を補正し比較できる過去 4 年間をみると、微増が続いている（右グラフ参照）。また、「(19)富田林高校へ入学してよかった」は過去 10 年以上問い続けているが、今年度は 92.7%と過去最高値を示した。10 年前と比較すると約 10 ポイントのアップとなり、この継続的な微増傾向を今後も維持することが求められる。

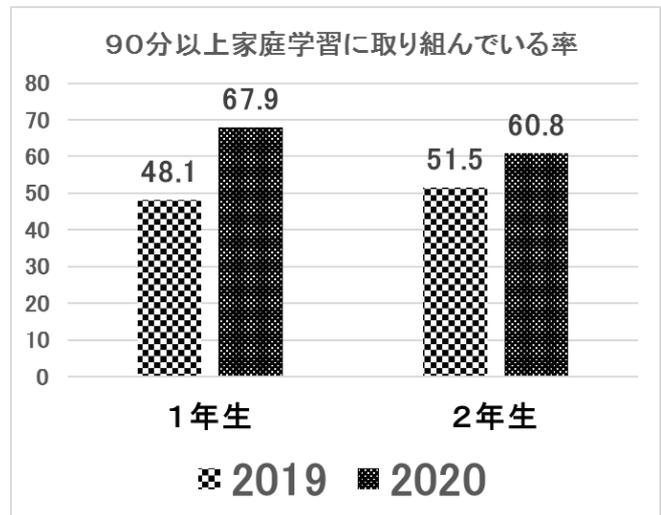


次に、学校経営計画に示す中期的目標のうち、「確かな学力の育成」「高い志を育み、進路実現をめざす」「豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力を育む」「地域・保護者との連携」の観点を踏まえ、結果を俯瞰する。

授業評価は改善基調が続き、家庭学習時間等は1, 2年生で増加

授業評価に関する項目（「(1)興味が持てる」「(3)内容を深く考えさせる」など）はここ 10 年程改善傾向が認められ、どちらも 4 年前に比べると 10 ポイント以上アップしている。教職員は「思考力を育む授業・考査」を意識しながら取り組んできたが、その結果が表れつつあると考えたい。

家庭学習についてはここ 5 年間ほどで見ると増減の波があるが、昨年、今年の 1, 2 年生をみると、どちらも前年に比べ有意に増加している。特に 75 期生（1 年生）は昨年よりも 20 ポイント近く高率で、これまでにない割合となっている。高校 3 年次では自ずと学習時間は確保されるが、1 年次での学習習慣の確立、2 年次での落ち込みの回避が必要であり、今後も学校と家庭で情報を共有し、生徒に啓発していきたい。



学校生活に関する項目は高位横ばい、学年が上がるにつれて良好

友人関係や行事への満足度は 95%近くを示し、これまでと同様に安定的な様子が窺える。また、いじめ対応については 90%を超え、教員との関係についても 9 割近い肯定率である。学校生活関連についての評価は学年が上がるにつれ良好な結果を示し、好ましい状況となっている。ただ、「(11)相談できる先生がいる」は今年度、過去 10 年における最高値となったが 67.7%で決して高いとは言えず、学校の課題と捉えたい。

（保護者評価） 学校からの情報発信は良好だが、説明会や学校行事等への満足度に課題。生徒とは対照的に、肯定的評価は落ち込む。

昨年度末に Web 連絡網を導入した成果が表れ、学校の情報発信に対する保護者評価は 93%でかなりの高率となった。しかし一方で、授業参観などの機会設定は 55%、保護者説明会の回数・内容についても昨年より 9 ポイントほど下がって 86%となり、新型コロナウイルス禍が響いた形となっている。また、学校行事や国際交流に関連する評価も 10 ポイント前後の落ち込みを示し、厳しい結果となった。

肯定的評価の総平均については 8 割を超えたものの、過去 4 年間では最低となった（昨年 87%）。また、「富田林高校で学ばせることが出来てよかった」に対する回答も 89.8%で、わずかに 9 割を切った（過去 6 年は 9 割超）。生徒の捉えと若干異なる傾向を示しているが、不断に教育活動の見直しを行うと同時に、保護者への丁寧な説明が必要であると考えている。